

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間: 2008年11月下旬から12月下旬までの旬別
 対象海域: 道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業: さんま棒受網漁業
 対象魚群: 南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量: 来遊は、断続的となる。

(2) 漁場: 11月下旬は、襟裳岬沖などに漁場ができて散発的となり、終漁する。

2) 三陸海域

(1) 来遊量: ゆるやかに減少し、11月下旬は中位水準、12月上旬には低位水準となり、終漁する。

(2) 漁場: 11月下旬は、宮古～金華山沖が漁場となる。12月上旬は、三陸南部の気仙沼～金華山沖が漁場となる。

3) 常磐海域

(1) 来遊量: 11月下旬は、高位水準で推移する。その後は減少し12月上旬に中位水準、12月中旬～下旬は低位水準となる。

(2) 漁場: 11月下旬は、常磐南部まで漁場が広がり、11月下旬～12月上旬は、常磐北部～南部にかけて漁場ができる。12月中旬～下旬には、小名浜～犬吠埼沖に漁場が残る。

2. 予測の概要

海 域		11月下旬	12月上旬	12月中旬	12月下旬
道東海域	来遊量	— →			
	動向	断続的			
	漁 場	襟裳岬沖			
三陸海域	来遊量	↘	↘		
	動向	中位減少	低位減少		
	漁 場	宮古 ～金華山沖	気仙沼 ～金華山沖		
常磐海域	来遊量	→	↘	↘	↘
	動向	高位水準	中位減少	低位減少	低位減少
	漁 場	北部～南部	北部～南部	小名浜 ～犬吠埼沖	小名浜 ～犬吠埼沖

3. 漁況の経過概要

(11 月上旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前旬を下回り、低位水準であった。

(2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石～霧多布沖、釧路沖、襟裳岬沖であった。

落石南南東～霧多布南沖の 20～45 海里付近(表面水温 10℃)。小型船が操業し、1 隻平均 20～25 トン程度漁獲。

釧路南～南南西沖の 20～40 海里付近(表面水温 12℃)。1～3 日夜にかけて小型船数隻と大型船 5 隻程度が操業。小型船で 5～15 トン、大型船は 70～100 トン以上漁獲。

襟裳岬南 70 海里付近(表面水温 11～12℃)。10 日夜に大型船が操業。80 トン漁獲。

(3) 魚体

29～30cm モードの大型魚が主体。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前年を上回り、前旬並みの高位水準であった。日別 CPUE(1 網当たりの漁獲量)から判断すると、来遊量は期半ばにやや少なくなったが、後半は再び増加した。

(2) 漁場

三陸海域の主漁場は、大船渡～金華山沖であった。

大船渡～金華山東南東沖の 10～35 海里付近(表面水温 14～17℃)。連日小型船と大型船が多数操業。小型船は 1 隻平均 20～30 トン、大型船は 70～100 トン以上漁獲する船が多かった。

(3) 魚体

30～31cm モードの大型魚が主体。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前年を上回ったものの、前旬を下回り、中位水準であった。日別 CPUE(1 網当たりの漁獲量)から判断すると、期後半にかけて、来遊量は減少した。

(2) 漁場

常磐海域の主漁場は、金華山東南東沖であった。

金華山東南東 35 海里～東南 50 海里付近(表面水温 15～19℃)。1～6 日夜にかけて、大型船が数隻～20 隻程度操業。90～100 トン以上漁獲する船が多かった。

(3) 魚体

30～31cm モードの大型魚が主体。